

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和6年5月31日現在）

今月の重点活動

■果樹 リンゴ園に害虫発生予察資材を設置

飛騨地域果樹産地協議会では、令和6年度「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」に取り組んでいる。本事業では、微気象観測と害虫発生予察を活用し、従来のスケジュール防除から適期防除への転換を目的としており、農業普及課は事業の企画提案やデータ収集・技術検証支援等の役割を担っている。

検証に必要なデータを収集するため、管内リンゴ園3ヶ所において昨年に引き続き気象観測装置を設置、5月15日には害虫発生予察資材（フェロモントラップ対象害虫7種）を設置し、微気象観測と害虫発生予察をそれぞれ開始した。

農業普及課では、データの収集・分析や活用方法の検証、適期防除への転換に向けた取り組みを支援していく。



【フェロモントラップ設置の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■担い手 高山市の長期研修生を巡回し研修状況を確認

高山市就農支援協議会では、5月14日、23日に市内の長期研修生10組11名を巡回し、研修状況を確認した。

就農支援協議会のメンバーから長期研修生に対して、日々の研修内容や技術の習得度合い、就農の準備状況などについて質問がなされた。研修生は日々熱心に研修に取り組んでいる様子で、就農に向けて強い意欲を見せていた。

農業普及課では、研修生が高度な技術・知識を習得した認定新規就農者になれるよう、指導農家や就農支援協議会の各関係機関と連携し、支援を継続していく。



【状況確認の様子】
※右から3人目が研修生

■高山市、飛騨市 地域計画の話し合いが進む

「地域計画」は、全国一斉に進められている農地利用の未来の設計図である。5月23日に高山市中央ブロックで地域計画の策定に向けた話し合いが行われた。当ブロックは担い手の多い特徴がある。

会議では、4ブロックに分け地元農業委員を中心に、地域の事情や結びつきに応じた話し合いの進め方が決定された。

農業普及課では、今後もコーディネーターとして集落ごとの話し合いに参画し、地域計画策定を支援していく。



【地図を見て話し合いの様子】

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■水稲 一発処理除草剤体系による雑草イネ対策

近年久々野町では、水田で雑草イネが増加しており、問題となっている。

5月22日、雑草イネ対策について、生産者とJA、農薬メーカー、高山市の関係機関が集まり、現地検討を行った。雑草イネが多発しているほ場で除草剤を散布し、薬剤の効果が認められるかどうか、今後の発生状況を確認していくこととなった。生産者からは、雑草問題の解決に向けた期待が寄せられた。

農業普及課では、8月末まで調査を行い、関係機関と協力して雑草イネのモニタリングを行うとともに、雑草イネも含めた水稲除草剤の散布体系の確立に向け検討していく。



【現地検討会の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■スナップエンドウ 吉城地域で現地研修会を開催

飛騨地域で栽培しているスナップエンドウは、他産地の出荷量が減少する期間（5～6月）に出荷でき、安定した単価で取引されている。

5月10日、吉城蔬菜出荷組合特産部会豆部会のスナップエンドウ現地研修会が開催され、約10名の生産者が出席した。研修会では、栽培状況や霜害等の対策について検討した。

5月28日には目揃え会が開催され、昨年から統一された出荷規格の確認を重点的に行った。農業普及課からは、今後の栽培管理について説明し、追肥の重要性を指導するとともに、病虫害対策の徹底を図った。

農業普及課では、今後も栽培指導を継続し、スナップエンドウの安定生産を支援していく。



【現地研修会の様子】

■夏秋トマト 3Sシステム栽培者を巡回指導

夏秋トマト3Sシステム（隔離培地による養液栽培）に取り組む生産者は、令和6年度に2名増えて10名となり、栽培面積は約146aとなった。

5月15日には、中山間農業研究所同行のもと、全生産者を巡回して、生育調査を行った。開花段数や葉柄汁中の硝酸イオン濃度の測定、また、病虫害の発生状況についても調査した。全ほ場で順調に生育しており、5月21日から夏秋トマトの出荷が始まった。

農業普及課では、今後、生育状況を踏まえた肥培管理を指導するとともに、3Sシステムの管理データを蓄積し、栽培指導に生かしていく予定である。



【生育等確認する関係者】